

はじまり

偶然の再会から始まった、 次世代エネルギーへの挑戦

H PROJECT × CCE | 根元一美氏の事業ストーリー

ひとつの連絡が、
長年の縁をもう一度つないだ。



根元一美 × タム・ウェンコン × CCE

人物・技術・マレーシアの設備から、
事業と成長の仕組みへ。

2026 年 10 月 16 日更新 | 事業構想・内部検討用



提供されたプロフィール写真

水彩挿絵は説明用イメージです

再会

なぜ、この話が私のところに届いたのか

最初の鍵は「お金」ではなく、昔から積み重ねた信頼でした。

「その技術の社長は、
昔、私がよく知っていた人だった。」

偶然の紹介から、長年のつながりを再発見した。



2026 年のはじめ、数年ぶりの連絡

「ミドリムシの新しい培養技術を手伝ってほしい」



👤 一本の電話

- 旧知の紹介者から、数年ぶりに連絡。
- 話の内容は、マレーシアで生まれたユーグレナの培養技術。
- 繰り返し説明を聞くうちに、事業の姿が少しずつ見えてきた。

水彩挿絵は説明用イメージです

懐かしい名前——タム社長

省エネ技術「EG-COOL（イージークール）」を通じた縁があった。



THAM WENG KONG

タム・ウェンコン



KHOO KENG KOON

共同創業者・取締役

🔗 省エネ技術からつながった縁

- EG-COOL（イージークール）は、空調の電力削減を目指す製品。
- 過去のハワイ・タイでの交流が、今回の関係につながった。
- 同じ技術者が、ミドリムシの培養にも取り組んでいた。

マレーシアで、思いがけない再会

時間を越えて戻ってきた旧友との信頼が、新しい事業の入口になった。



過去の交流 | ユーザー提供写真

♡ 「まさか、あの根元さんだったとは」

- 互いの人柄を、以前から知っていた。
- 仕事だけでない交流の積み重ねがあった。
- 再会をきっかけに、継続的な事業協議へ進んだ。

その再会には、切実な理由があった

当時、マレーシアの大型設備は工事が進む一方、建設資金の確保が課題だった。

1.1億円

1モジュールの建設費見込み

概算の説明

4,000万円

これまでの投入額

入金証明は確認対象

7,000万円

完成に向けた不足額

1.1億円 - 4,000万円

当時の完成支援の経緯。最新の本体進捗は28・33ページに掲載。

助けたい——しかし、単なる資金支援では終わらない

ここから「日本で事業を育てる」という第二の構想が生まれる。

現在の本体進捗は28・33ページに掲載

📅 当初、目の前にあった課題

- 最初の量産設備の完成を目指す。
- 大型でも培養・採油が続けられるか確かめる。
- 建設と試運転に必要な資金を確保する。

📖 その先にある事業構想

- 自分たちでもモジュールを運営する。
- マレーシアでの収益を、沖縄展開の土台にする。
- 日本・タイでも事業を育てる。



提供動画 約7秒 | PPTXはクリック再生／PDFは静止画

第1章

なぜ、この技術が必要なのか

旧友との再会が、世界のエネルギー問題につながっていく。



水彩挿絵は説明用イメージです

エネルギーは、世界の暮らしを動かしている

石油の供給が不安定になると、物流・物価・暮らしまで影響を受ける。

📍 運ぶ



飛行機・船・トラックを動かし、
物流を支える。

🏭 つくる



産業の熱や原材料として、ものづ
くりに使われる。

💚 暮らす



供給や価格の変化が、地域の生活
にも届く。

水彩挿絵は説明用イメージです

飛行機や船は、電気だけでは置き換えにくい

特に長距離の航空・海運では、少ない重さや体積に多くのエネルギーを持てる燃料が重要。

✈ 飛行機



長い距離を飛ぶため、軽く、多くのエネルギーを積む必要がある。

🚢 大型船



海上輸送を続けるため、安定した燃料の補給が必要。

大型車・重機



既存の設備に対応する燃料も、移行期の選択肢になる。

水彩挿絵は説明用イメージです

ミドリムシとは

代替燃料の一つとして、ミドリムシに注目

小さな生き物が蓄えた成分を、燃料・素材の原料として使う。



ユーグレナの顕微鏡写真

CCE 公式資料 p.20

👁️ 小さな生き物が、油の原料に

- ユーグレナ（ミドリムシ）は、微細藻類の一種。
- 育てた藻体から、油などの成分を取り出す。
- 回収した油を加工し、燃料や素材に使う。

石垣島ツアーでの利用計画

2026 年 2 月の石垣島ツアー向けに、サステオ搭載を企画した募集告知。



バイオ燃料で走るバスの図解 | 実際の車両写真ではありません

🚌 石垣島での取り組み

- 参加者の賛同を条件に、サステオ搭載を予定。
- 運行結果や、この便の藻油配合は未確認。
- CCE の粗藻類油とは別の、完成燃料の計画。

サステオは現在主に廃食油由来。ユーグレナ社は藻油の量産・低コスト化の研究も継続。

特別なツアーから、日常の路線バスへ

完成したバイオ燃料は、既存の車両を活かす選択肢にもなる。



東急バスでの導入例

65 台

- 2026 年 4 月から、瀬田営業所の路線バスが対象。
- 廃食油等由来 HVO51 %と、通常軽油 49 %。
- 車両や給油設備を活かせる点に価値がある。

路線バス利用のイメージ。実際の東急バス車両ではありません。

この HVO は使用済み食用油などが原料。CCE 製でも、ミドリムシだけで作る燃料でもない。

それでも、なぜ広がりきらないのか

課題は「大量に、安く、同じ品質で作り続けること」。



📖 広い場所

光を使う屋外培養では、広い面積が必要になる。

CCE 比較資料 p.8 | 他社施設の例



☀️ 安定した生産

天候・温度・雑菌への対応が必要。

CCE 比較資料 p.8 | 他社施設の例



📷 製造コスト

設備・栄養・回収・精製に費用がかかる。

CCE 比較資料 p.8 | 他社施設の例

約 1 万円 /L と 200 円 /L は、同じものではない

高コストの壁に挑む意味は大きい。だからこそ、何の価格かを分けて説明する。



🚚 2018 年の小型実証

約 1 万円 /L

精製済みの完成燃料

昔の小規模な実証プラントの費用。現在の量産原価ではない。

💧 今回の事業計算

200 円 /L

粗藻類油の販売価格

200 円は原価ではなく、収益モデルの基準となる売価。

完成燃料と、精製前の原料油。製品の段階が違うため、単純な価格比較はしない。

水彩挿絵は説明用イメージです

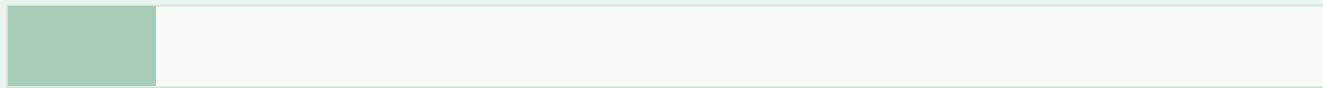
世界では、新しい燃料の供給源が求められている



航空・海運の脱炭素化が、再生可能な燃料の開発を後押しする。

✈ 世界の SAF 消費量

2024 年 約 10 億 L



2030 年 約 90 億 L



IEA 「Renewables 2025」の予測

🌐 政策と研究も動いている

- 欧州： SAF の供給割合は 2025 年 2 %から 2030 年 6 %へ。
- 米国： 藻類燃料・素材の低コスト化研究を支援。
- 供給源を増やす技術には、事業化の余地がある。

90 億 L は SAF 市場全体の予測。藻類油だけの需要や、CCE の受注量ではない。

水彩挿絵は説明用イメージです

日本のユーグレナ社も、培養の壁に挑んでいる

2025 年、商業用タンクを使った高密度培養の実証結果を発表。



培養研究のイメージ（実際の研究設備ではありません）

△ 公開された試験結果

脂質含有率 平均約 35 %

- 光ではなく、糖などを使う従属栄養培養。
- 同社の従来のヘルスケア向け培養より、最大約 10 倍の密度。
- 脂質を増やすことと、速く育てることの両立が課題。

CCE との直接比較試験ではない。CCE の価値は、株・給餌・気泡・大型運転・採油の組み合わせで評価する。

水彩挿絵は説明用イメージです



「油を育てる」と「燃料に仕上げる」を分けて考える

日本・マレーシア・イタリアの企業も、精製側の大型計画を進めている。

CCE の計画



微細藻類 → 粗藻類油

- タンク培養で、新しい原料油を供給する。
- 売る相手は、油を扱う商社や精製会社。

別事業：ユーグレナ社などの合併

PETRONAS × Enilive × ユーグレナ社

- 2028 年下半期の稼働を予定。
- 年間約 65 万トンの原料処理能力を計画。
- 当初は使用済み油・動物脂肪など。将来の藻油利用も想定。

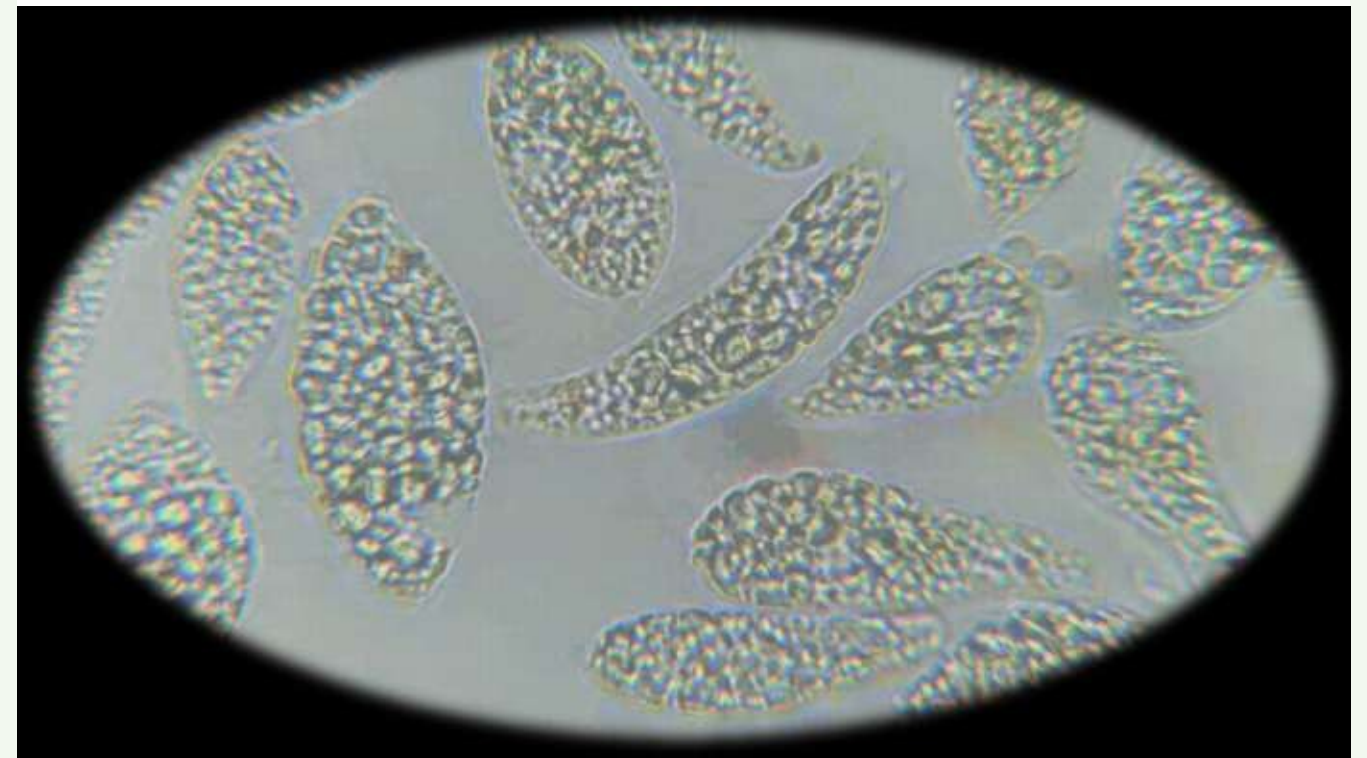
CCE とこの合併会社との取引・提携は確認していない。完成燃料の価格を、CCE 粗油の売価に直接置き換えない。

水彩挿絵は説明用イメージです

第2章

その壁に挑んだ、タム社長

マレーシアで進む、光に頼らない培養技術。



研究の歩み—— 2020 年から培養技術へ

省エネ事業に続き、微細藻類の量産という難題へ取り組む。



研究開発の様子 | CCE 公式資料 p.6

🧪 研究から、設備づくりへ

- 2020 年：微細藻類部門・研究開発を開始。
- 2023 年：パイロット設備を稼働。
- 2024 年：培養工程を最適化。
- 2025 年：商業規模のシステム整備へ。

開発年表は CCE の公式提案書に基づく。

ユーグレナは光以外でも育てられる

「光合成」と「糖を栄養にする培養」の違いを図解。



屋外培養の比較例 | CCE 自身の設備ではありません

 光を使って育てる

日光・CO₂ などを利用する。



CCE のパイロットタンク | 公式資料 p.10

 糖を与えて育てる

光を使わず、タンクの中で育てる。

従属栄養培養（じゅうぞくえいようばいよう）＝糖などを栄養にして育てる方式。方式自体は既知。

重要なのは、独自の「組み合わせ」

培養株・栄養の与え方・細かな気泡・設備運転の工夫。

🧐 培養株の管理



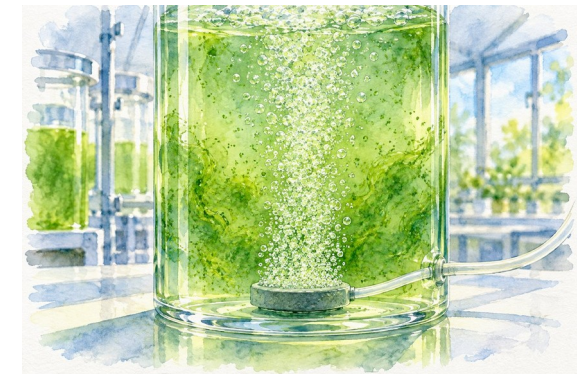
使うミドリムシの系統を管理する。独占的な権利の範囲は確認対象。

💧 栄養の与え方



グルコースを、いつ・どれだけ与えるかを調整する。

🫧 細かな気泡



酸素の供給と、細胞への負担を調整する。

水彩挿絵は説明用イメージです

公開された国際特許出願がある

WO2026127757A1 | 微細藻類の培養方法。

資料に示された技術

- 糖などの栄養を、断続的に補給する。
- 細かな気泡を、一定の周期で送る。
- 増殖しやすい条件を組み合わせる。

公開番号

WO2026127757A1

- 微細藻類の培養方法。
- 公開日： 2026 年 6 月 18 日。出願人は CCE 。
- 国際公開と、各国での権利登録は別。

特許の登録・存続状況と、事業で利用できる範囲は、最新の公報・契約で確認する。

農業の残りものを、培養の原料にできるか



パームヤシやサトウキビの残渣を「糖」に変えて利用する構想。

01



農業の残りもの

パームヤシやサトウキビ

02



糖に変える

前処理・糖化（とうか）

03



タンクで育てる

ユーグレナが糖を利用

04



油を取り出す

燃料・素材の原料へ

廃材をそのまま入れるのではない。利用できる糖液にする工程が必要。現在の糖は購入との回答。

水彩挿絵は説明用イメージです

10 トン段階の培養実証——大型化の入口

パイロット段階の成果を、大型設備の運転につなげていく。



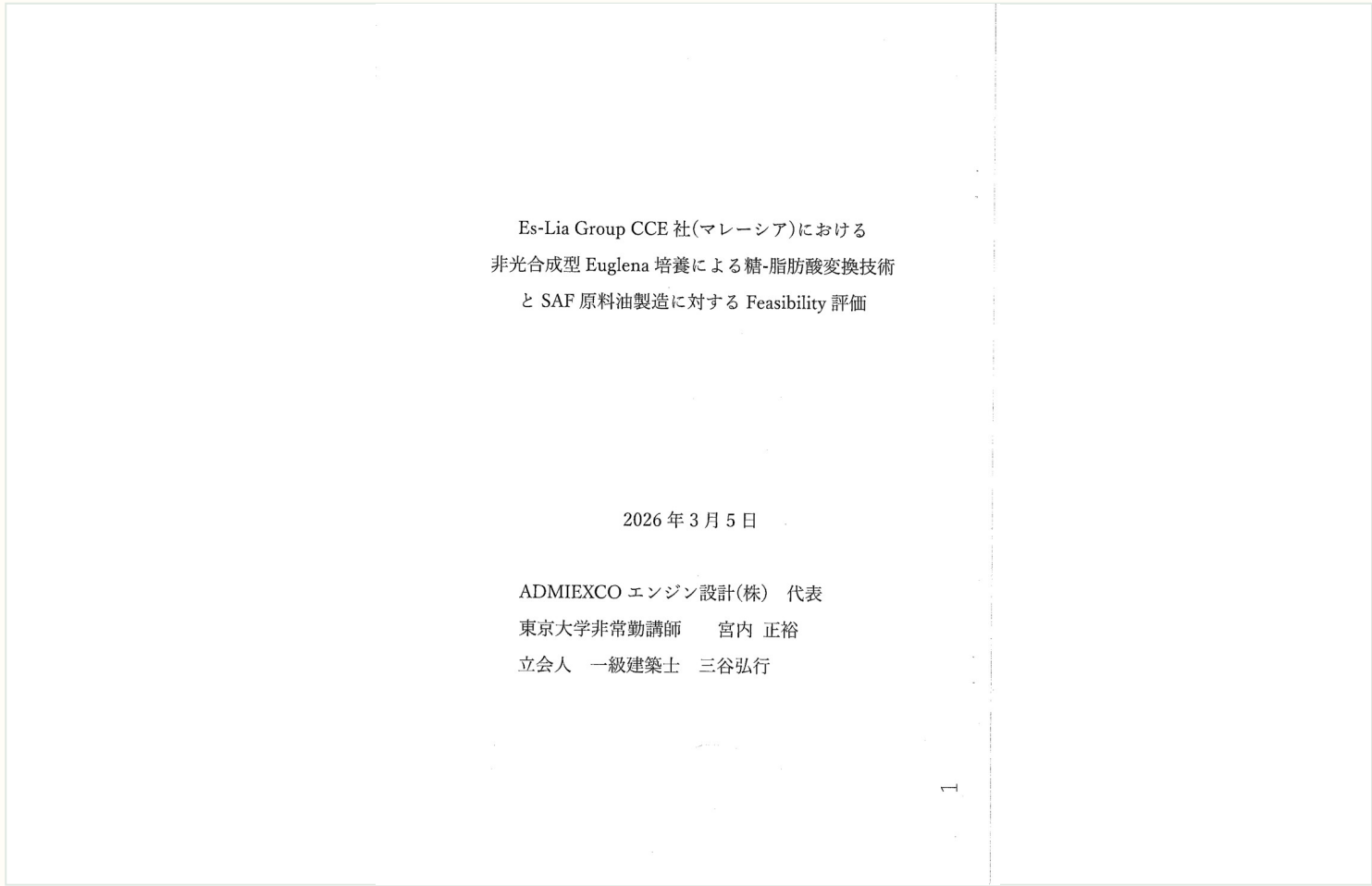
パイロットタンクの全体 | CCE 公式資料 p.10

📋 大型化への土台

- 10 トン級での培養成功が説明されている。
- パイロット設備の写真がある。
- 同じ規模で回収した油の量と、測定記録を確認する。

宮内先生による技術評価が転機となった

技術的に検討すべき課題と、大型化への手順が文書にまとまった。



2026 年 3 月 5 日付 技術評価書

□ 宮内正裕氏による技術検討

- ADMIEXCO エンジ設計の代表と記載。
- 評価書の肩書きは「東京大学非常勤講師」。
- 培養の確認と、油を分ける工程を検討。
- 大学として事業や利益を保証したものではない。

5 日間の培養データ——何が測られたか

100L 試験では、光の吸収度などから増殖の傾向を追っている。

5. 培養試験結果

最初の 100L 培養タンクにおける、種菌から 5 日間培養に関する結果を Table2 に示す。後半になると酸性度が上昇して 4 日目には pH2.4 という強い酸性を示した。ミドリムシのフローラは強い酸性を示すことで雑菌の抑制には好ましい。菌体数は吸光度での測定故、下記 Table2 の「希釈倍率×吸光度」が菌体数に比例する。5 日後の培養液重量の約 1 割がミドリムシで、更にその 6 割が脂肪酸であることから、培養液重量の約 6 %が脂肪酸になるまで 5 日間で培養が完了した。

Table 2 培養サイクル5日間における菌体濃度の変化（100Lタンク工程）

測定日 (日後)	pH	吸光度の 希釈倍率	希釈補正 吸光度	菌体濃度 指標	備考
0	3.44	2×	1.805	~0.1%	
1	4.43	10×	8.657	~0.8%	
2	3.70	20×	14.467	~1.4%	
3	3.00	50×	17.283	~1.8%	
4	2.41	100×	51.233	~4.8%	
5	2.59	100×	79.117	~7.5%	

17

100L 試験の測定表 | 宮内氏評価書 p.17

何をもったデータか

- pH や吸光度などの数値が並ぶ。
- 吸光度は、液の濁りから増殖の傾向を見る指標。
- 大型設備で「油 12 トン」を回収した実績とは区別する。

タンク本体が完成。次はソフト面へ

ユーザーから届いた現地進捗と提供写真 / 2026年10月30日受領（日本時間）



屋外のタンク全体



屋外タンクを別の角度から



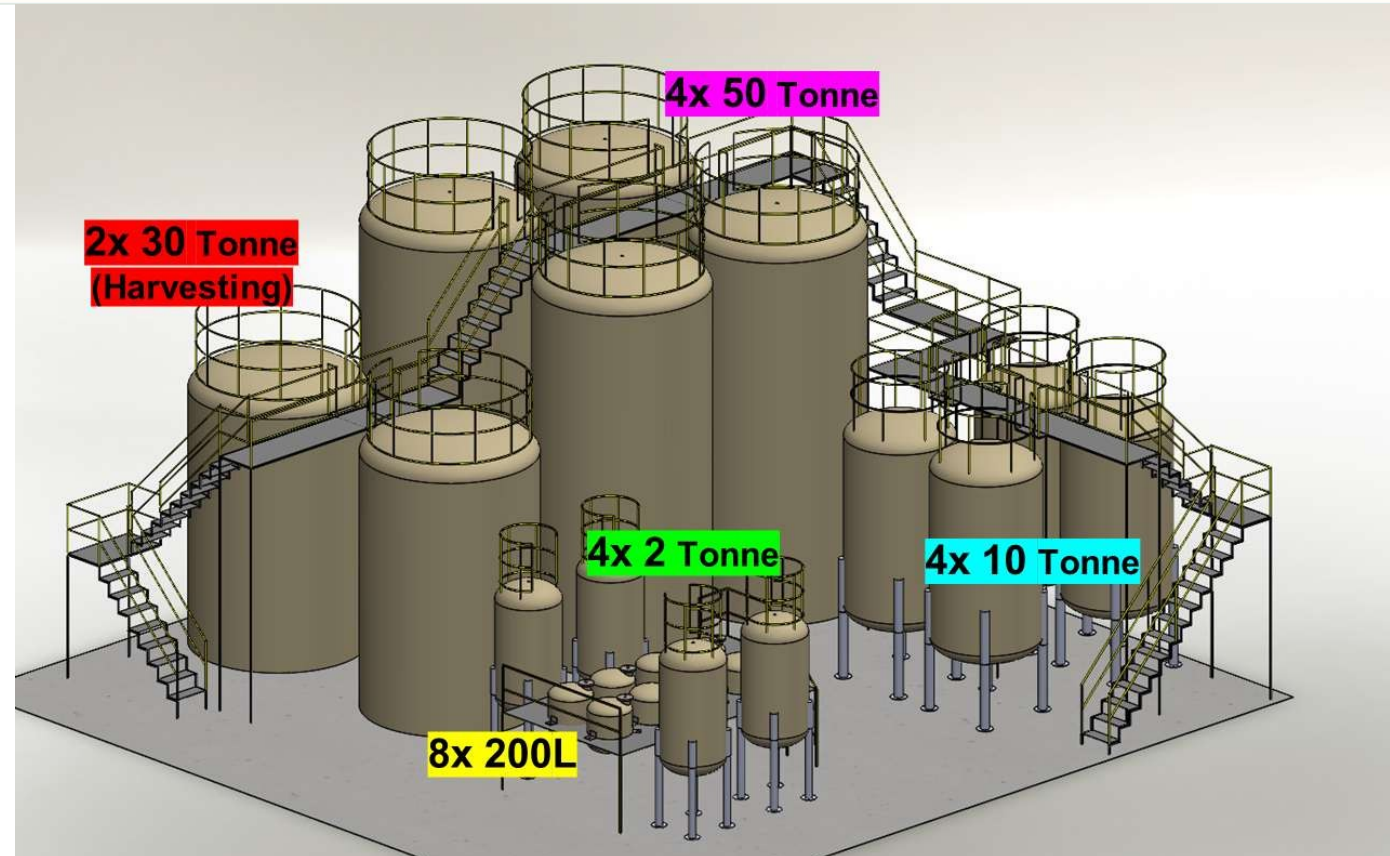
屋根下のタンクと周辺設備

現地からの報告：タンク本体は完成し、今後ソフト面を進める段階。

撮影日は未確認。写真は試運転の成功や商業稼働・量産実績を示すものではありません。

1 モジュールは、複数のタンクがつながる仕組み

小さな種を育て、段階的に大きなタンクへ移していく。



1 モジュールの構成図 | CCE 公式資料 p.11

段階的に、タンクを大きくする

- 種培養： 200L クラス
- 成長用： 約 2 トン
- 増殖用： 約 10 トン
- 最終培養： 50 トン級 × 4 基
- 回収用： 30 トン級

年間 840 トンという生産計画

1 モジュール＝4 生産ライン。5～7 日周期で粗藻類油を回収する想定。

4 ライン

1 モジュールの構成

50 トン級タンクを含む

5～7 日

1 サイクルの目安

CCE の計画値

840 トン / 年

公式の粗藻類油計画

収益モデルは別途 820 トンを使用

公式の年間計画能力であり、年間を通じて達成した生産実績ではない。

粗藻類油は、燃料づくりの原料になる



取り出した油を、そのままガソリン車や飛行機に入れるわけではない。

01



増やす

タンクで培養する

02



集める

藻体を回収する

03



油を取り出す

粗藻類油になる

04



精製する

用途の規格に合わせる

SAF（サフ）＝持続可能な航空燃料。完成燃料にするには追加の加工・検査が必要。

水彩挿絵は説明用イメージです

燃料以外にも、複数の出口がある

油・藻類粉末・ケーキ・ワックスなど、工程によって作るものが変わる。



粗藻類油

燃料原料・潤滑油・化粧品原料など



藻類粉末・ケーキ

飼料・肥料・熱利用の検討



藻類ワックス

産業素材への利用を検討

下流の処理方法によって製品が変わる。同じバッチで全部の数量を同時に売る計算にはしない。

本体の完成と、これから進めること

タンク本体の完成は、ユーザーからの現地進捗です。

今回届いた進捗	これからの段階	今後確かめること
<div>タンク本体は完成</div> <p>2026年10月30日に受領した現地進捗と、新しい提供写真3枚を掲載します。</p>	<div>ソフト面を進める</div> <p>具体的な作業内容・担当・日程は未確認です。確認できた内容から更新します。</p>	<div>実際の運転・生産</div> <p>大型設備の連続運転、回収量、品質、原価は、記録に基づいて確認します。</p>

公開資料・MOU、初期データと10トン段階の説明は、従来の資料として残します。

タンク本体の完成を、設備全体の完成・試運転成功・商業量産の証明とは扱いません。

出所：ユーザー提供の現地進捗（2026年10月30日受領）／既存資料p.25・30・33・71

第3章

世界へ広がり始めた連携

企業・大学・行政関係者との接点が、事業の輪郭をつくる。



現地のニュースで、CCE の名前が報じられた

2025 年、油脂抽出技術と発電構想に関する提携が報道。



油脂抽出技術の協業に関する活動

2025 年 4 月 | CCE × Oasis Xtract

培養と抽出技術を組み合わせるための提携。



サバ州との事業構想に関する活動

2025 年 7 月 | CCE 系会社 × SAIP

バイオマス発電の構想に向けた連携。

現地映像① | 油脂抽出技術の提携

CCE × Oasis Xtract | 2025 年のニュース報道。



ニュース映像を再生

[YouTubeで開く ↗](#)

PDF はクリックして元動画を開く。ブラウザ版はこのページで再生（インターネット接続が必要）。

現地映像② | サバ州の発電構想

CCE 系企業と現地の産業開発関係先との提携が報道。



ニュース映像を再生

[YouTubeで開く](#)

PDF はクリックして元動画を開く。ブラウザ版はこのページで再生（インターネット接続が必要）。

モナッシュ大学との研究協力

2026 年 1 月 20 日、CCE と Monash University Malaysia が MOU を締結。



Monash University Malaysia

モナッシュ大学マレーシア校

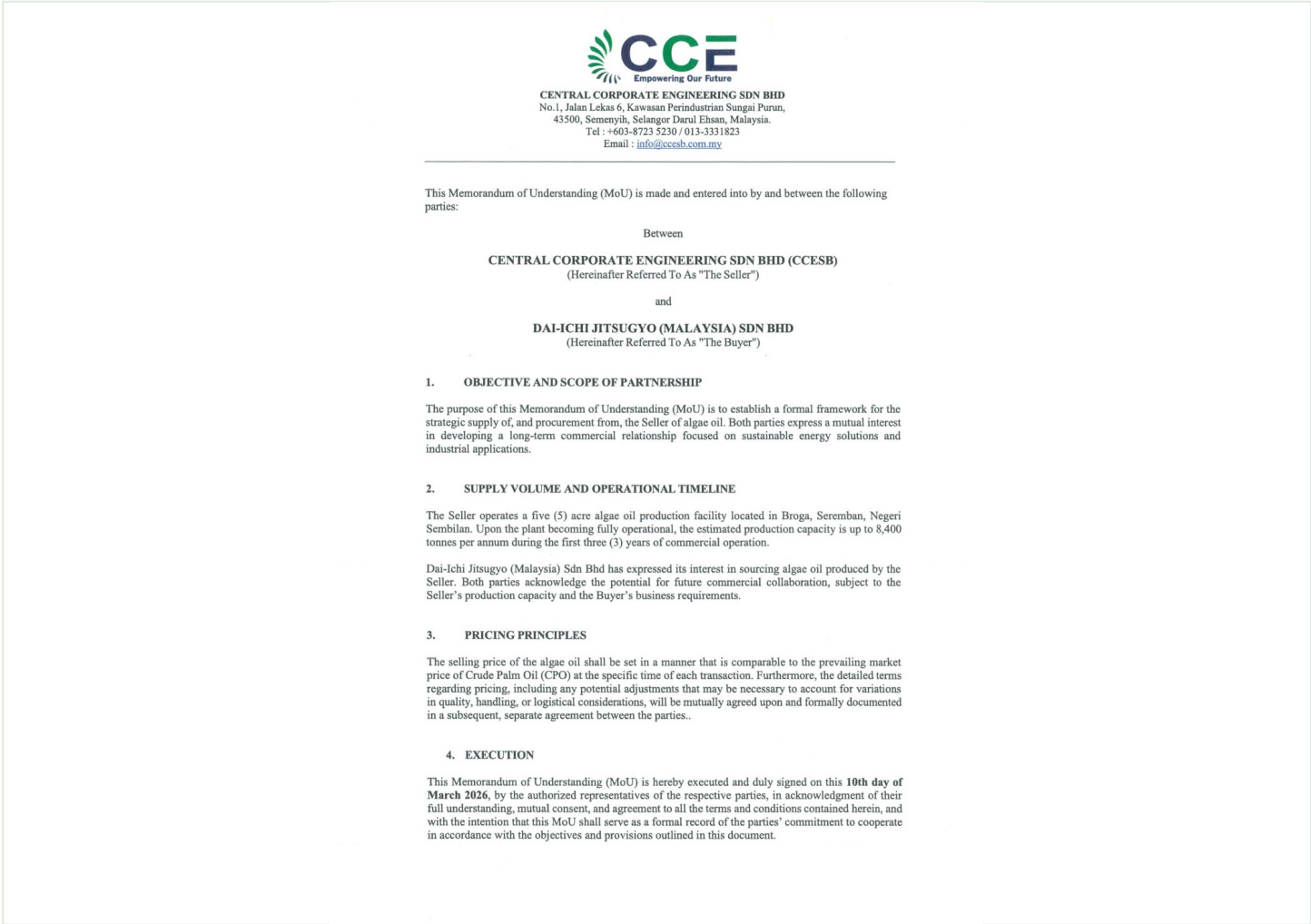
□ 2026 年 1 月 20 日の研究協力 MOU

- 藻類バイオ技術とグリーンエネルギー。
- 共同研究・人材育成・助成金申請など。
- 研究を進める枠組みであり、商業生産の保証ではない。

水彩挿絵は説明用イメージです

第一実業との MOU が示すこと

粗藻類油の購入を検討する相手が、書面上に現れた。



CCE ・第一実業マレーシア法人の署名入り MOU

書面にあること

- DAI-ICHI JITSUGYO (MALAYSIA) SDN BHD が相手方。
- 藻類油の調達に関心を示している。
- 価格は粗パーム油相場を参考に協議。
- 具体的な数量・価格は、後続の合意で決める。

ソフトバンク関連として提示された契約書

「ソフトバンク関連」として提示された契約。正式な相手方法人と条項を確認する。

“Qualified IPO” or “QIPO”:

A successful listing of the Company on a recognized stock exchange (including but not limited to Singapore Exchange, NASDAQ, NYSE, Hong Kong Stock Exchange, Bursa Securities Malaysia Berhad), or a buyout transaction, in each case with an enterprise value not less than Three Hundred and Fifty Million US Dollar (US\$350,000,000).

“Payment Trigger Date” or “PTG”:

The date falling one hundred and eighty (180) days following the occurrence of a QIPO.

“Transfer Price” or “TFP”:

Three Hundred Thousand US Dollar (US\$300,000.00) for one percent (1%) of the TNS.

“Full Allocation” or “FLA”:

Ten percent (10%) of the TNS.

“Exercise Unit” or “EUT”:

A transfer unit equivalent to the TFP, exercisable by an SR upon the PTG.

2. Purpose

The purpose of this Agreement is to specify the team-up endeavors between the Company and SBCVC and its Associates, and to formalize the strategic cooperation and mutual commitment between the Company and SBCVC and its Affiliates.

The Parties recognize that this Agreement reflects their shared intention to align resources, expertise, and efforts in order to enhance the Company’s growth, competitiveness, and value creation.

3. Share Transfer

3.1 The TSH(s) hereby agree to transfer to each SR, and each SR hereby agrees to accept from the TSH(s), shares representing the FLA, with an aggregate value of Ten (10) EUTs for each SR, being Three Million US Dollar (US\$3,000,000) payable by SR to TSH(s) in clause 4 below.

3.2 The TSH(s) shall cause the Company to complete all requisite registration procedures with the governmental authorities and issue valid share certificates or other documentary evidence to the SRs, evidencing such transfer.

株式コールオプション契約の原文

成長を見据えた株式の権利

- SBCVC Pte. Ltd. と Fortune Vantage Holdings が記載。
- 上場・買収に関する条件がある。
- 株式代金の支払先は、譲渡株主。
- 130 億円の設備出資の確約条項は、この書面では確認できない。

なぜ大きな資金は「次の実証」を待つのか

研究に賛同することと、大きな金額を投じることは別の判断。

✓ 同じ結果を繰り返せるか



大型でも、量・品質・運転が安定するか。

📷 採算が合うか



何リットルの油を、いくらで生産できるか。

📄 販売につながるか



買主・価格・数量・代金回収が決まるか。

実証を待つ姿勢と、将来の出資が確約されていることは別。

水彩挿絵は説明用イメージです

盛本社長との、専門家同士の質疑応答

複数月にわたり、技術・分析・物質収支の質問が重ねられた。

技術を確かめる質問

- 糖を何トン使い、油をどれだけ回収するか。
- 油の成分分析が整合しているか。
- 原価に、どの費用まで含めているか。

事業につなげる質問

- 油を買う会社・精製する会社と、どう組むか。
- 日本で技術を利用する体制をどうつくるか。
- 資金提供と、経営上の役割をどう契約するか。

第4章

再会が、事業の形を変えた

人のつながりを、運営する会社と具体的な権利につなげる。



再会から、人と事業がつながるイメージ

水彩は説明用です。実在人物・実際の会合を描いたものではありません。

根元氏の提案——「3 モジュールを私たちに」

マレーシアの最初の 1 モジュールとは、別の 3 モジュールの運営構想。

「沖縄へ展開する前に、
自分たちで 3 つの設備を動かす。」

マレーシアでの事業収益を、日本展開の土台へ。



なぜ根元氏に、3 モジュールの話が来たのか

長い信頼、相談できる人脈、地域での事業構想がつながる。



昔からの縁

過去の交流を重ねた関係が、
再会後の対話の土台となる。



事業を動かす力

モリモト医薬代表・盛本氏。
医薬分野の経験・知見と人脈を
持つ相談相手が身近にいる。



新しい拠点

沖縄のウコン・コーヒー農園と、
地域に根付く事業の連携構想。

写真・関係性・沖縄の農園構想はユーザー提供情報。右の水彩はイメージ。会社としての提携・保証を示すものではありません。

出典：[株式会社モリモト医薬 会社案内（代表取締役 盛本修司）](#)

CCE とアグリフォス、それぞれの役割

「日本側」という曖昧な表記ではなく、事業主体の名前を示す。

CCE

- 培養株・技術・ノウハウを管理。
- マレーシアで製造・運転を担う。
- 設備利用や技術提供の条件を契約。

アグリフォス株式会社

- 根元氏側の運営主体として検討。
- 別枠 3 モジュールの運営・資金管理を担う構想。
- CCE からの売上配分を受ける計画。

協力企業・出資者

- 販売・精製・資金面で協力。
- 参加する権利と責任を明文化。
- 資金・契約・報告を分けて管理。

アグリフォスは過去の説明記録に基づく名称。正式商号・役員・持分は登記と契約で最終確認。

資金調達は、2つの段階に分けて考える

最初の設備を止めない資金と、別枠の3モジュール資金。

第1段階 | 最初の1モジュール

約 7,000 万円

- 既存の設備を完成させ、試運転する。
- 不足資金・使途・返還条件を確認。
- 別枠3基への振替は、契約で決める。

第2段階 | 別枠の3モジュール

約 3.3 億円

- 約 1.1 億円 × 3 基の設備費。
- アグリフォス側の運営事業の構想。
- 沖縄展開につながる収益基盤を目指す。

沖縄を、次のエネルギー生産拠点へ

3万坪の用地構想、農業残渣の活用、雇用の創出を目指す。

📖 3万坪から考える事業

- 用地の権利・利用条件を確認する。
- サトウキビ残渣からの糖利用を検討。
- 少数設備で検証し、段階的に拡大。
- コーヒー・ウコン等の農業事業とも接点。

♡ 地域に残したい価値



- 燃料の調達手段を増やす。
- 製造・物流などの新しい仕事を生む。
- 農業資源を地域で活用する。

水彩挿絵は説明用イメージです

タイへの展開という、もう一つの方向

マレーシアと気候条件に近い地域として、タイでも事業を検討。

タイと沖縄。
「生産」と「地域の仕事」を
結びつける計画。

気候が近くても、原料・電力・冷却・許認可は地域ごとに検証する。



タイでの過去の事業活動 | 提供写真

今回の CCE ユーグレナ培養設備・生産実績を示す写真ではありません。

3 基から 50 基へ——段階的な未来図

大きな数字より、確実な 1 基目の実証が拡大の土台になる。



50 基 × 820 トン＝年間 41,000 トン〈今回のモデル〉。CCE 公式の 840 トン計画なら 42,000 トン。

第5章

事業は、どう収益を生むのか

作る量・売る価格・配分の仕組みを、順に見ていく。



公式計画は 840 トン。計算モデルは 820 トン。

公式資料の数値と、この資料で使うモデル値を混ぜない。



840 トン / 年

CCE 公式の生産計画

1 モジュール・4 生産ライン

820 トン / 年

今回の収益計算に使用

ユーザー指定の基本モデル

1.1 億円

1 モジュールの設備費

概算の説明

820 トンは本資料の計算前提。実測した損失率から差し引いた数値ではない。

水彩挿絵は説明用イメージです

820 トン・ 200 円 /L で、年間売上は約 1.78 億円

重さをリットルに直してから、販売価格を掛ける。



$$820,000 \text{ kg} \div 0.92 \text{ kg/L} = \text{約 } 89.1 \text{ 万 L}$$

$$\text{約 } 89.1 \text{ 万 L} \times 200 \text{ 円 /L} = \text{約 } 1 \text{ 億 } 7,826 \text{ 万円}$$

密度 0.92kg/L は、前版から引き継いだ暫定の仮定。実際の油の密度・販売数量で再計算する。

水彩挿絵は説明用イメージです

売上の 60 %を CCE、40 %をアグリフォスへ

年間売上約 1 億 7,826 万円を、現在の配分案に当てはめる。



CCE 60 %

約 1 億 696 万円

アグリフォス 40 %

約 7,130 万円

CCE が担う部分

製造・運転・設備関連費などと、CCE の収益を含む配分。
費用の対象範囲は契約で明確にする。

アグリフォスが受け取る部分

アグリフォス株式会社の事業収入。この金額が、そのまま
投資家への配当になるわけではない。

60 %・40 %は現在の事業条件案。正式な収益配分契約の確認が必要。

水彩挿絵は説明用イメージです

約 7,130 万円を、会社運営と分配原資に分ける

アグリフォスの受取分を、50 %ずつに分ける計画。



🛡️ 会社を続けるためのお金

50 %

約 3,565 万円 / 年

- 会社運営・営業・監査など。
- 修繕・予備費・必要な税負担の確認。

👤 出資者への分配原資

50 %

約 3,565 万円 / 年

- 参加条件に応じて分配する。
- 実際の売上入金と分配可能額を確認。

最終の分配額は、契約・税・必要な運転資金を確認して決める。

水彩挿絵は説明用イメージです

1,000 万円の例

1,000 万円を出資した場合の、分配計算例

設備費 1.1 億円に対する持分を 1/11 とし、均等条件で試算する。



1/11

1,000 万円 ÷ 1.1 億円

出資比率の仮定

約 324 万円 / 年

3,565 万円 ÷ 11

税引前・計算上の分配例

約 27 万円 / 月

年額 ÷ 12 か月

月平均。毎月の支払保証ではない

元本や利回りを保証する数字ではない。全量販売・代金回収・配分条件の成立が前提。

水彩挿絵は説明用イメージです

「年間約 600 万円」と「会社に半分残す」は違う

同じ金額を、二つの用途に同時には使えない。

 受取分を全部分けた場合

約 648 万円 / 年

7,130 万円 ÷ 11

会社の経費や予備費を、別に確保しなければならない。

 会社に半分残した場合

約 324 万円 / 年

3,565 万円 ÷ 11

今回採用している「会社 50 %・分配 50 %」の計算。

前者は比較のための計算であり、採用した分配計画ではない。

200 円・ 250 円・ 320 円で売れた場合を比べる

同じ生産量・配分条件で、販売単価による変化を試算する。

販売単価	200 円 /L 基準	250 円 /L 参考	320 円 /L 未確定
年間売上	約 1 億 7,826 万円	約 2 億 2,283 万円	約 2 億 8,522 万円
アグリフォス受取 40 %	約 7,130 万円	約 8,913 万円	約 1 億 1,409 万円
受取の 50 %を分配原資に	約 3,565 万円	約 4,457 万円	約 5,704 万円
1/11 の分配例（年額）	約 324 万円	約 405 万円	約 519 万円

別の配分仮定： CCE を 120 円 /L に固定すると、 1/11 の年額例は 250 円時 約 527 万円、 320 円時 約 810 万円。

前提：年 820t ・密度 0.92kg/L ・受取の 50 %を分配・ 1/11 持分。 250 円は比較用、 320 円は 10/16 の商談説明由来。
固定額配分は契約未確認。税・物流等の負担条件や実測値で変わり、販売・分配を保証する試算ではありません。

出典：本編 52 ～ 57 頁の計算条件／ 2026/10/16 ユーザー説明

MOU の販売条件と、完成 SAF の参考価格

粗藻類油の販売協議と、精製後の航空燃料の価格指標を区別する。

提供 MOU に記載された原則

藻類油の調達に関心。
取引時の粗パーム油（CPO）市場価格を参照。
品質・取扱い・物流等の調整を含む価格は、
相互合意のうえ後続契約に記録する。

完成 SAF の外部参考

€1,925 / t

EU ・ 2025 年の SAF 平均価格
EASA が 2026 年公表。
CCE の粗藻類油とは商品段階が異なる。

今回の試算： 200 円は基本モデル、 250 円は感度比較、 320 円は過去の商談説明の未確定値。
提供 MOU に 250 円・ 320 円の確定売価はありません。外部の完成燃料価格は CCE の販売価格を保証しません。

出典：提供 MOU 抜粋（2026/3/10 記載）

出典：[EASA ReFuelEU Annual Technical Report 2026（EU・2025年実績）](#)

3年後を目指す成長戦略

生産実証から、3基の運営、上場準備へ。



📅 0～6か月

1基目を完成・検証

- 50トン級の運転・採油を測定。
- 資金使途と権利を契約。
- 買付条件を具体化。

📈 6～18か月

別枠3基を段階稼働

- 820トンモデルを検証。
- 月次収支と入金を報告。
- 沖縄・タイの実証準備。

📈 18～36か月

拡大と上場準備

- 複数設備の売上実績。
- 監査・契約・管理体制。
- CCEの上場準備を目指す。

時期は事業目標。大型化の実証・契約・資金条件により見直す。

水彩挿絵は説明用イメージです

上場の前に、4つの土台をつくる

技術に加えて、会社として継続的に運営できることを示す。

01



安定した生産

量・品質・原価を再現する

02



第三者による確認

財務と資金の流れを検証する

03



契約と権利

技術・土地・販売・運営権

04



管理の仕組み

経営責任・法令・情報開示

「3年後の上場」は目標。コールオプション契約が、上場を保証するわけではない。

契約をやさしく

コールオプションとは？

将来、契約で決めた条件で株式を買える「権利」。

01 権利を決める

02 条件の成立を確認

03 行使するかを選ぶ

提供書面には、企業価値 3.5 億米ドル以上の
上場・買収等に関する定義がある。
即時の設備出資や、利益の保証とは異なる。

“Qualified IPO” or “QIPO”:
A successful listing of the Company on a recognized stock exchange (including but not limited to Singapore Exchange, NASDAQ, NYSE, Hong Kong Stock Exchange, Bursa Securities Malaysia Berhad), or a buyout transaction, in each case with an enterprise value not less than Three Hundred and Fifty Million US Dollar (US\$350,000,000).

“Payment Trigger Date” or “PTG”:
The date falling one hundred and eighty (180) days following the occurrence of a QIPO.

“Transfer Price” or “TFP”:
Three Hundred Thousand US Dollar (US\$300,000.00) for one percent (1%) of the TNS.

“Full Allocation” or “FLA”:
Ten percent (10%) of the TNS.

“Exercise Unit” or “EUT”:
A transfer unit equivalent to the TFP, exercisable by an SR upon the PTG.

2. Purpose
The purpose of this Agreement is to specify the team-up endeavors between the Company and SBCVC and its Associates, and to formalize the strategic cooperation and mutual commitment between the Company and SBCVC and its Affiliates.
The Parties recognize that this Agreement reflects their shared intention to align resources, expertise, and efforts in order to enhance the Company’s growth, competitiveness, and value creation.

3. Share Transfer
3.1 The TSH(s) hereby agree to transfer to each SR, and each SR hereby agrees to accept from the TSH(s), shares representing the FLA, with an aggregate value of Ten (10) EUTs for each SR, being Three Million US Dollar (US\$3,000,000) payable by SR to TSH(s) in clause 4 below.
3.2 The TSH(s) shall cause the Company to complete all requisite registration procedures with the governmental authorities and issue valid share certificates or other documentary evidence to the SRs, evidencing such transfer.

提供書面の抜粋（全文・署名の確認ではありません）

SBCVC と Fortune Vantage Holdings

会社名と、資料で確認できる範囲を示す。

SBCVC Pte. Ltd.

エスビーシーブイシー／未上場企業への投資など

- シンガポール法人として契約に記載。
- 公式サイトは 2000 年設立の投資会社と説明。
- 日本の SoftBank Group との現在の資本関係は別途確認。

Fortune Vantage Holdings

フォーチュン・バンテージ・ホールディングス

- BVI 法人として契約に記載。
- 登録番号 1879736。
- 存続証明・所有者・署名権限などを確認。

法人の实在確認と、CCE への出資履行・出資金額の確認は別。

この契約が示すこと、示さないこと

事業の成長構想と、書面にある約束の範囲を分ける。

☑ 示すこと

- 戦略的協力に関する取り決め。
- 将来 CCE 株式を取得する権利。
- 上場・買収等の条件の定義。

❓ この契約だけでは示さないこと

- 3 年後の上場保証。
- 50 トン成功時の 130 億円出資確約。
- 株式代金の CCE への入金。
- アグリフォス出資者への CCE 株式自動付与。

参加者には、事業の進み方を見えるようにする

「特別な未公開情報」ではなく、経営の透明性を高める。



01



毎月

生産量・稼働・売上入金

02



四半期

収支・資金残高・契約状況

03



毎年

監査・権利・上場準備

04



株式の機会

正式条件と法令に沿って案内

未公開重要情報を株式取引の特典にしない。上場確約・優先取得の口約束もしない。

水彩挿絵は説明用イメージです

再会から、量産、そして成長へ

人の信頼を、数字・契約・実績のある事業に育てる。



01



本体完成後の整備

ソフト面を進め、
運転・採油を確認

02



販売を確定

量・価格・入金条件

03



収益を分ける

CCEとアグリフォス

04



拡大を目指す

3基・沖縄・上場準備

技術の力 × 人のつながり × 経営の透明性

水彩挿絵は説明用イメージです

参考資料

確かめながら、前へ進むために

詳しい質問や、事業条件の確認に使う補足資料。



資料は 4 つの種類に分ける

実績と計画を混ぜないことが、説明の信頼につながる。



01



公開・署名資料

MOU ・ 大学発表 ・ 公報など

02



技術文書

評価書 ・ パンフレット ・ 分析表

03



事業モデル

820 トン ・ 売価 200 円 ・ 配分案

04



これからの確認

入金 ・ 量産実測 ・ 権利 ・ 契約

水彩挿絵は説明用イメージです

量産に向けて、3つの数値をつなぐ

入れたもの・育ったもの・回収したものを、同じ条件で測る。

糖と油の関係

- 年間グルコース 960 トンとの説明。
- 年間粗藻類油計画との整合。
- 他の炭素源・含水率も確認。

1 サイクルの油 12 トン

- 200 トンの培養液との対応。
- 水分や溶媒を除いた正味の量。
- 同じバッチで実測する。

成分の再確認

- C13:0 等の特徴的な分析値。
- 標準物質による確認。
- 同一ロットで整合を確認。

契約と評価書の順番を正しく伝える

資料の日付と、関わり始めた時期は別に整理する。

01



2025 年 10 月

SBCVC 等の株式契約

02



2026 年 1 月

大学との研究 MOU

03



2026 年 3 月

宮内氏の技術評価書

04

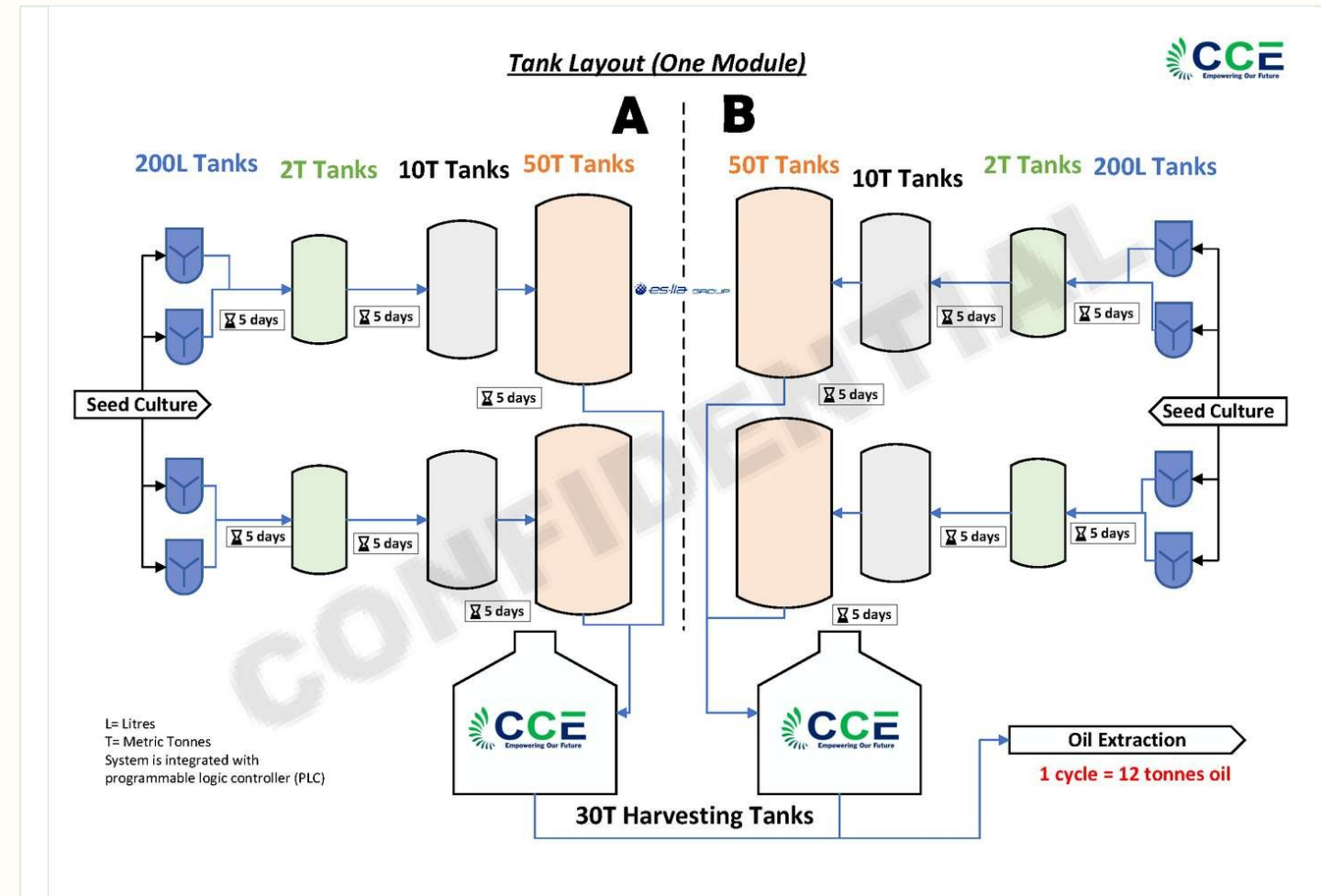


2026 年春

第一実業との MOU

後からできた 3 月の評価書が、前年 10 月の契約の直接理由だったとは説明しない。

収益計算の 820 トンを、実績値として扱わない。



確認する運転データ

- 10 トン・ 50 トンでの独立した試験。
- 糖投入量・乾燥菌体・回収油量。
- 分離・抽出で回収できる割合。
- 停止日・洗浄・雑菌への対応記録。

CCE 公式の油抽出フロー | 資料 p.22

60 % ・ 40 %に、何を含めるかを明確に

費用と収益の二重計上を避け、売上の入金から分配までを追えるようにする。

CCE の 60 %

- 原料・電気・人件費・排水・抽出。
- 設備関連費・税・CCE の収益。
- 物流や保険まで含むか確認。
- 上振れ売価でも割合が同じか確認。

アグリフォスの 40 %

- 会社費用 50 % ・ 分配原資 50 % の案。
- 日本側の税・返済・準備金を確認。
- 受取時期と送金条件を確認。
- 未収や停止時の扱いを定める。

3 モジュールの権利と、資金を守る契約

名前や人脈だけでなく、誰が何を受け取るのかを書面で示す。



📄 技術・設備の権利

- 対象となる 3 モジュール。
- 地域・期間・利用料・運営者。
- 設備所有と技術利用の条件。

💰 資金の受け皿

- アグリフォスの正式商号・役員。
- 7,000 万円の支援と別枠 3 基を分離。
- 返還・振替・損失負担の条件。

🛡️ 販売・分配の条件

- 品質・数量・価格・支払。
- CCE との 60 %・40 % 契約。
- 分配開始・減額・停止の条件。

水彩挿絵は説明用イメージです

農業・地域のつながりを、次の事業へ

本事業との関係や参画範囲を、一つずつ確認する。



🍃 沖縄での接点

- エナジックとの事業構想。
- ウコン・コーヒー・パッションフルーツ。
- 沖縄の事業者・地域関係者との協議。

📖 東南アジアでの接点

- タイでの既存事業のつながり。
- マレーシアの培養技術を事業へ。
- パーム残渣等を利用する研究。

関係者との交流と、正式な出資・販売・土地提供の契約を区別する。

水彩挿絵は説明用イメージです

説明を支える、主な原資料

元の文書・写真・動画と照らし合わせられる形で管理する。

技術・設備

- CCE公式提案書（28ページ）。
- 宮内正裕氏の技術評価書。
- 技術質疑と油の分析資料。
- 国際公開番号に関する既存調査。

契約・公開発表

- CCE・第一実業マレーシアのMOU。
- SBCVC等との株式オプション契約。
- 大学・CCE・ユーグレナ社の発表。
- 提供された写真と現地映像。
写真3枚・現地進捗（2026年10月30日受領／撮影日未確認）

写真は本文の理解を助けるために使用。商業生産・投資成果の保証を示すものではない。

この版で統一した名前と計算の前提

見やすさを変えても、資料・説明・試算の違いは残す。

会社名・運営主体

- 運営主体の呼称は「アグリフォス株式会社」。
- 名称は過去の説明記録に基づく。
- 正式登記・CCE との権利契約は最終確認。
- SBCVC 等の名称使用には契約条件の確認が必要。

1 モジュールの試算条件

- 年間 820 トン・売価 200 円 /L。
- 密度 0.92kg/L は暫定仮定。
- CCE60 %・アグリフォス 40 %。
- アグリフォス受取分の半分を分配原資。

320 円は未確定の価格シナリオ。生産・販売・回収・契約が成立する前の、内部検討用モデル。

創業期の支援と、広がる事業

栄養問題への関心から始まり、健康食品・化粧品、燃料へ。

2005 年 創業と培養技術の事業化

ユーグレナ社は創業した年に、ミドリムシの屋外大規模培養に成功。

堀江貴文氏による創業期の支援

ライブドア時代の資金支援や事務所設備の提供を、当事者の記録で確認できる。

食品・研究・燃料へ広がる期待

成長を支えるのは、研究成果を商品や安定供給につなげる取り組み。

堀江氏について確認できるのは創業期の支援。最近の参入や CCE への関与を示すものではありません。

出典：堀江貴文氏 記名記事（2015/10/13）

出典：ICC 登壇記録（2016/11/28）

出典：ユーグレナ IR資料（2026/9/10）



水彩は説明用イメージ

健康用途の広がり、現在の収益源

ヘルスケアが、ユーグレナ社の現在の収益基盤を支えている。

2026 年上期 ヘルスケア売上 243.19 億円

連結売上 265.07 億円の約 92 %。自社商品に加え、グループのブランド、原料・OEM も含む。

成分研究が、日常の商品へ

ユーグレナ由来素材を採用した機能性表示食品が、2025 年にアリナミン製薬から発売。

食品・化粧品と、研究の積み重ね

睡眠の質や疲労感など、特定の成分・商品の条件に即して健康価値を伝えている。

機能性は商品・成分・研究条件ごとに異なります。食品は疾病の診断・治療・予防を目的としません。

出典：ユーグレナ IR資料（2026/9/10）

出典：素材採用発表（2025/2/13）

出典：商品発表（2025/1/14）



水彩は説明用イメージ

黒字化に時間がかかった理由

販売の変化、先行投資、買収に伴う費用が重なった。

販売モデルの転換

2019 年はオフライン広告中心の単品通販が伸び悩み、広告抑制に伴い定期顧客も減少。

燃料事業などへの先行投資

燃料実証プラント関連の一括費用や、子会社の減損が利益を圧迫。

買収時の一過性費用と償却

2021 年はキューサイ連結時の棚卸資産評価で約 48 億円の費用。のれん・無形資産の償却も影響。

2021 年度は 15 か月決算。研究投資だけでなく、販売・投資・買収会計を分けて見る必要があります。

出典：[2019年度 決算説明資料（2019/11）](#)

出典：[ユーグレナ 株主総会Q&A（2022/3/26）](#)



水彩は説明用イメージ

構造改革と、2026 年上期の改善

商品・販路・コストの見直しを、次の成長につなげる。

2026 年上期 営業利益 18.71 億円

前年同期比 14.3 %増。親会社帰属の中間純利益は約 0.74 億円となり、黒字化。

改善を支えた取り組みと要因

価格改定、生産性向上、物流・調達の見直しを実施。前年の為替差損、調達手数料、希望退職費用の解消も寄与。

2030 年度 売上 1,000 億円規模を目標

ヘルスケア 600 億円、燃料 300 億円、アグリ等 100 億円が会社構想。実現には事業拡大と商業化が必要。

純利益は説明資料の丸め表示。上期の実績です。2026 年通期の最終黒字化と 2030 年数値は会社目標です。

出典：決算説明資料（2026/8/19）

出典：動画を見る：公式決算説明会（2026/8/21公開）

出典：中長期構想（2026/9/10）



水彩は説明用イメージ

マレーシアのバイオ燃料精製工場

PETRONAS ・ Enilive ・ ユーグレナ社が進める共同事業。

2028 年下半期の稼働開始を予定

ジョホール州ペンゲランで建設。2024 年 7 月に最終投資決定、2025 年 11 月に鍬入れ式。

年間最大約 65 万トンの原料処理を計画

SAF ・ HVO ・ バイオナフサを製造する予定。ユーグレナ社の出資比率は 15 %。

廃食油などを原料に、燃料へ精製

当初の原料は廃食油、動物性油脂、植物油加工残渣など。藻油の利用は将来に向けた研究課題。

65 万トン は原料処理能力の予定値。藻類の生産量ではありません。CCE の培養設備とは別の事業です。

出典：[出資比率の発表（2025/7/17）](#)

出典：[鍬入れ式の発表（2025/11/10）](#)

出典：[PETRONAS発表（2025/11/10）](#)



水彩は説明用イメージ

世界に広がる藻類研究と、量産への期待

食品での利用を重ねながら、燃料に使える量と価格を目指す。

国際的な研究交流

2026 年 8 月の Global Algae Summit に 9 か国・237 人・64 団体が参加。食品、農業、養殖、燃料などを議論。

培養から油の回収まで、共同で研究

ユーグレナ社と Petronas Research は、培養・回収・油脂抽出・副産物利用の共同研究を推進。

商業用タンクで高密度培養を実証

ユーグレナ社が 2025 年に成果を公表。燃料用原料の商業生産は 2030 年代前半を目標としている。



水彩は説明用イメージ

国際会議は藻類全般が対象です。研究成果と将来目標は、CCE の採用・性能・収益を裏付けるものではありません。

出典: [国際会議の報告 \(2026/9/16\)](#)

出典: [共同研究の発表 \(2024/8/28\)](#)

出典: [高密度培養の発表 \(2025/2/17\)](#)

藻油の量産で乗り越える課題

培養の成功を、安定供給と販売条件につなげることが鍵。

安定した原料と運転

糖・栄養源を継続して調達し、品質を保ちながら大型設備で安定して培養できるか。

培養後まで含めたコスト

回収・脱水・油脂抽出・電力・設備費を含め、販売できる価格まで下げられるか。

燃料原料としての品質と環境価値

買い手の規格を満たす油を安定供給できるか。原料と電力も含めたライフサイクル評価が必要。



水彩は説明用イメージ

糖を使う従属栄養培養と、光合成による CO₂ 固定は区別します。生産性の向上だけで採算や環境効果は確定しません。

出典: [米国DOE 藻類燃料分析 \(2024/7/24\)](#)

出典: [米国DOE Advanced Algal Systems](#)

出典: [ユーグレナ 高密度培養 \(2025/2/17\)](#)

CCE を検討する意義と、次の検証

世界共通の量産課題に対し、CCE の構想を実測で評価する。

検討する意義

光に依存しないタンク培養、栄養供給と細かな気泡の制御。生産効率を高める可能性を検討する。

実測で確かめること

大型設備での連続運転、品質の再現性、糖・電力・回収まで含む原価と環境負荷。

事業として確かめること

買い手の品質規格・数量・価格、設備と運転の責任範囲、契約条件を具体化する。



水彩は説明用イメージ

CCE 部分は本編 20 ～ 30 頁の構想に基づきます。外部企業の実績から CCE の性能・採用・利益は推定しません。

出典：基礎資料：本編 20 ～ 30 頁（既存 76 枚版）

出典：参考：[米国DOE Advanced Algal Systems](#)

小さな体に、植物的・動物的な性質

光と糖を使い分け、鞭毛で泳ぐ単細胞の微細藻類。

光合成も、糖の吸収も

葉緑体で光と CO_2 を利用。糖などの溶けた有機物を利用して育つこともできる。

柔軟な体を支えるしくみ

細胞膜はあり、硬い細胞壁はない。膜の下のペリクルが体を支える。

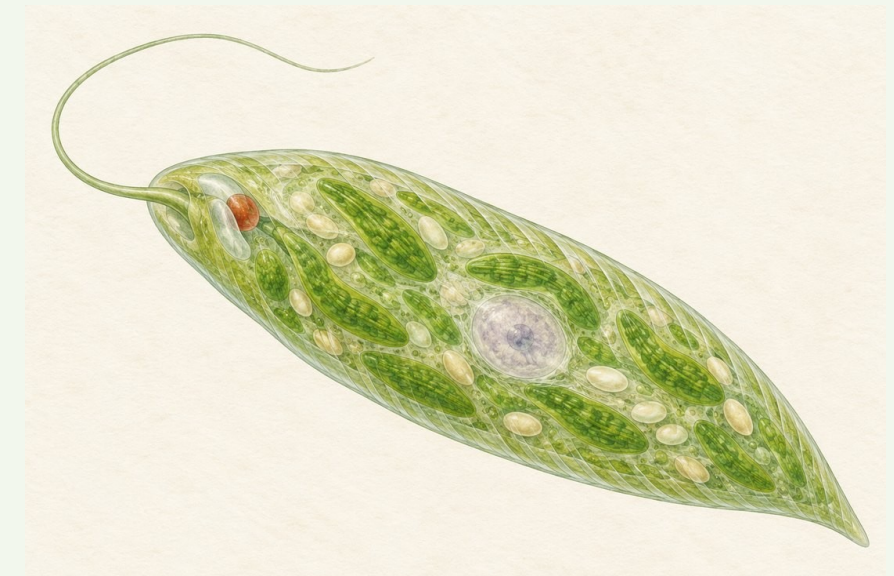
鞭毛を使って泳ぐ

鞭毛は2本あり、通常、体外へ長く伸びるのは1本。口で餌を捕食するしくみではない。

模式図・縮尺不同。対象は *Euglena gracilis*。細胞壁の有無だけで吸収率や健康効果は断定できません。

出典：[理研 ミドリムシに期待大！（2021/8/30）](#)

出典：[Plant Physiology 鞭毛・走光性研究（2004）](#)



科学の説明用イメージ

体内に蓄え、条件を変えて油をつくる

培養・代謝・回収・精製を組み合わせ、用途に合う原料へ。

パラミロンを蓄える

細胞内に貯蔵多糖のパラミロン（ β -1,3- グルカン）を蓄積する。

酸素制限で代謝が変わる

酸素が乏しい条件では、パラミロンを利用して脂質のワックスエステルをつくる。

回収した油を、精製・燃料化

油を取り出しただけで航空燃料になるわけではない。用途ごとに工程と品質の確認が必要。



科学の説明用イメージ

成分や収量は培養条件で変わります。燃料向けの一般科学であり、CCE 独自工程の性能を示す図ではありません。

出典: Inuiほか Wax ester fermentation (1982)

出典: 理研 ゲノム編集研究 (2019/6/17)

油を取った後にも、使い道をつくる

何が残るか、どう回収するかに応じて、次の用途を設計する。

脱脂藻体に残る成分

抽出条件に応じてタンパク質などが残る。残渣分析で成分と品質を確かめる。

飼料・肥料などへの活用

ユーグレナ社は 2023 年、抽出残渣で魚粉の一部を置き換えるマダイ給餌試験を公表。

食品用途は、別に適格性を確認

抽出剤の残留、衛生、規格、安全性などの評価が必要。CCE でも工程と採算を検証して用途を決める。



科学の説明用イメージ

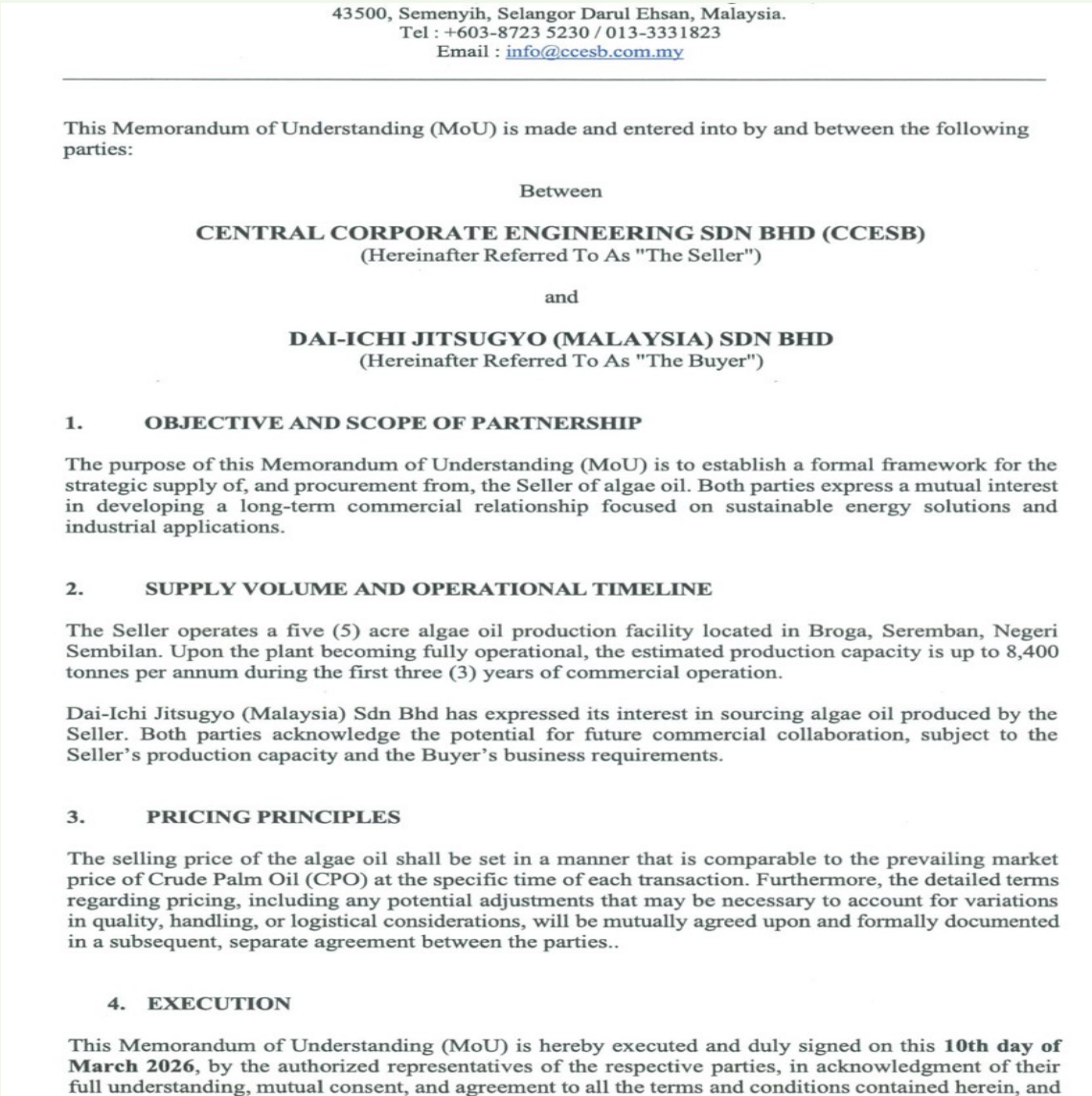
他機関の試験結果は CCE の実績ではありません。搾油残渣がそのまま健康食品になる、全量売れるとは限りません。

出典: [ユーグレナ マダイ給餌試験 \(2023/6/27\)](#)

出典: [Bioresource Technology Reports 残渣研究 \(2022\)](#)

参考：藻類油の販売協議に関する MOU

実物の記載を確認するための参考抜粋。



CCE と第一実業マレーシア法人の提供書面。

藻類油の供給・調達に向けた枠組みを記載。

CPO 市場価格を参照し、詳細条件は別途合意。

具体的な確定売価・全量買取保証とは区別。

提供された 1 画像のみを掲載。契約全文・署名・締結状況の検証済みを意味しません。

参考：コールオプション関連の提供書面

実物の記載を確認するための参考抜粋。

“Qualified IPO” or “QIPO”:

A successful listing of the Company on a recognized stock exchange (including but not limited to Singapore Exchange, NASDAQ, NYSE, Hong Kong Stock Exchange, Bursa Securities Malaysia Berhad), or a buyout transaction, in each case with an enterprise value not less than Three Hundred and Fifty Million US Dollar (US\$350,000,000).

“Payment Trigger Date” or “PTG”:

The date falling one hundred and eighty (180) days following the occurrence of a QIPO.

“Transfer Price” or “TFP”:

Three Hundred Thousand US Dollar (US\$300,000.00) for one percent (1%) of the TNS.

“Full Allocation” or “FLA”:

Ten percent (10%) of the TNS.

“Exercise Unit” or “EUT”:

A transfer unit equivalent to the TFP, exercisable by an SR upon the PTG.

2. Purpose

The purpose of this Agreement is to specify the team-up endeavors between the Company and SBCVC and its Associates, and to formalize the strategic cooperation and mutual commitment between the Company and SBCVC and its Affiliates.

The Parties recognize that this Agreement reflects their shared intention to align resources, expertise, and efforts in order to enhance the Company’s growth, competitiveness, and value creation.

3. Share Transfer

3.1 The TSH(s) hereby agree to transfer to each SR, and each SR hereby agrees to accept from the TSH(s), shares representing the FLA, with an aggregate value of Ten (10) EUTs for each SR, being Three Million US Dollar (US\$3,000,000) payable by SR to TSH(s) in clause 4 below.

3.2 The TSH(s) shall cause the Company to complete all requisite registration procedures with the governmental authorities and issue valid share certificates or other documentary evidence to the SRs, evidencing such transfer.

上場・買収、支払時期、取得価格等の定義。

本編 62 ～ 64 頁は、この書面等の説明。

権利・義務は、全文と当事者の確認が必要。

設備への即時出資や分配保証とは区別。

提供された 1 画像のみを掲載。契約全文・署名・締結状況の検証済みを含みません。

ユーグレナでつくる、次世代エネルギーと豊かな未来

ユーグレナ事業

投資家からの質問と 事業化の判断材料

国際調査・契約照合・原価試算・実行計画

2026 年 10 月 19 日 更新版

公開資料と提供書面から、事業の可能性と
投資判断に必要な条件を整理します。



提供資料の培養設備写真（実証収量を示すものではありません）



エネルギー
供給の選択肢

脱炭素・
環境貢献

新産業・
雇用の可能性

日本と
マレーシア

石油依存を減らす
原料の選択肢

CO₂ 削減への期待
環境負荷の評価

地域での事業
人材・技術の育成

長年のつながり
次の事業へ

本書の位置づけ	
区分	判断に用いる内容
公開情報	市場・制度・外部企業の実績
提供資料	設備写真・MOU・関連書面
事業仮定	生産量・売価・配分条件の試算

1 世界で「高くても買われる」 バイオ燃料市場

脱炭素の制度と需要が、完成燃料の市場を支える。



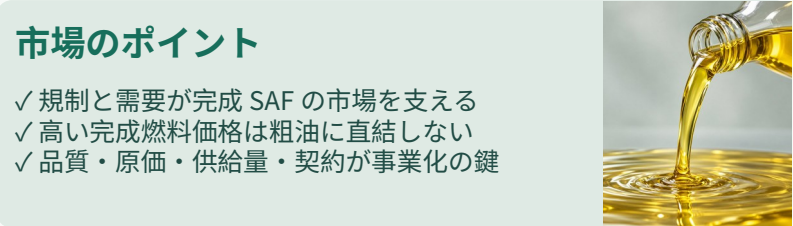
EU2025 年平均の円換算例。原料油の売価ではありません。

ユーグレナから燃料までの流れと市場



上の画像は工程を説明するイメージ

製品段階	想定する市場	必要な条件
藻体・成分	食品・化粧品等	品質・安全性・規格
粗藻類油	燃料精製会社等	価格・品質・安定供給
再生可能燃料	物流・公共交通等	燃料規格・設備適合
SAF 完成燃料	航空会社等	認証・LCA・供給契約



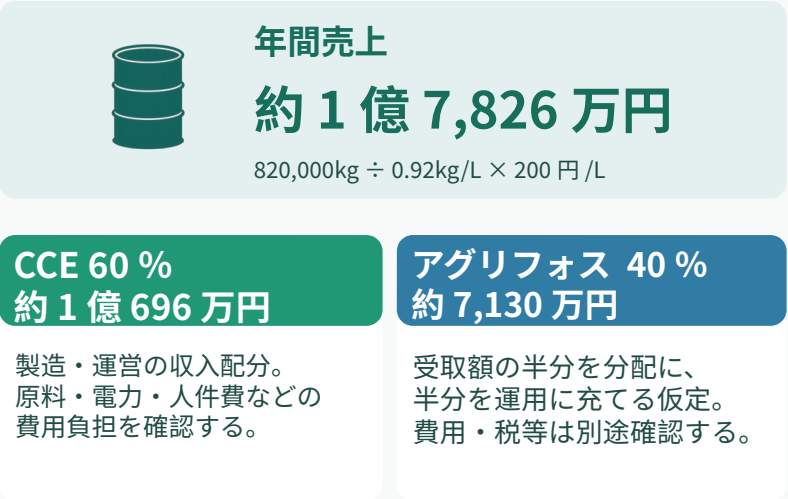
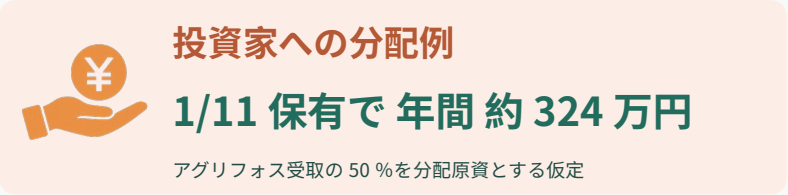
出典：EU制度・EASA 2026報告。原資料1,925€/t。
仮定160円/€・0.80kg/Lで246.4円/L（約250円/L）。

2 1 モジュールの収益モデル（試算）

年 820t ・密度 0.92kg/L ・販売単価 200 円 /L
CCE 60 %／アグリフォス 40 %の仮定



発酵・生産設備の説明用イメージ（CCE 実施設の写真ではありません）



販売単価による比較（同じ生産量・配分条件）

売価 円 /L	年間売上	1/11 分配例 / 年
200 基準	約 1.78 億円	約 324 万円
250 参考	約 2.23 億円	約 405 万円
320 未確定	約 2.85 億円	約 519 万円

250 円は参考感度、320 円は 10/16 商談説明の未確定値。
生産・売価・分配を保証しません。実測・費用・税・契約条件で変動。